

2024年4月2日

各 位

会社名 株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 野崎 秀 則  
(東証スタンダード市場・コード番号2498)  
問合せ先 取締役統括本部長 森 田 信 彦  
TEL 03-6311-6641

**株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル**  
**【掲載情報】内閣府広報誌「Highlighting Japan」**  
**同社顧問 辰巳正明さんのインタビュー掲載**

内閣府広報誌「Highlighting Japan」2024年3月号に当社グループの事業会社である株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：米澤栄二）顧問 辰巳正明さんが携わった「マタディ橋保全計画及び維持管理能力向上プロジェクト」のインタビューが掲載されました。

**【掲載サイト】**

日本語版：[コンゴ民主共和国のマタディ橋に継承される日本の技術](#)

英語版：[Technology Inherited from Japan Supports the Maintenance of Democratic Republic of the Congo's Matadi Bridge](#)



マタディ橋全景

コンゴ民主共和国のコンゴ川を渡河するマタディ橋（道路鉄道併用吊橋）はコンゴ川を渡河する唯一の橋梁であり、首都キンシャサを結ぶ交通の要衝のみならず、周辺住民にとっても無くてはならない橋梁で、2023年5月に完成40周年を迎えました。

建設当初は日本人がバナナ・キンシャサ交通公団(OEBK)総裁として常駐し、維持管理について技術移転を実施していましたが、政情不安により日本からの援助は途絶えていました。しかし、日本人エンジニアから吊橋建設と維持管理の技術を学んだ OEBK 職員は、不足する資金、調達困難な材料、維持管理の必要性への理解が少ない社会、足りない技術や経験、権力争いに影響される人材の配置、国内や隣国との紛争による人材の流出等、さまざまな困難に見舞われながらも、データベースの作成・更新を行い、日々の点検と維持作業を続け、橋を守り続けてきました。

2012年に日本からの援助が再開し、メインケーブルの防食対策として本州四国連絡橋公団で開発されたケーブルの最新防食技術が導入されるなど、マタディ橋の延命と高度な最新の維持管理が続いています。同橋は維持管理に関する日本からの技術移転が成功した事例として、2023年に土木学会インフラメンテナンスプロジェクト賞を受賞しています。

同社は既存インフラの補修技術を移転すると同時に維持管理の重要性を伝えていくことで、同国のインフラがより長く安全に使用し続けられるよう支援しています。



以上

<本資料に関するお問い合わせ先>  
株式会社オリエタルコンサルタンツグローバル  
担当 広報室 富田早季  
TEL: 03-6311-7570 FAX: 03-6311-8020  
[URL:www.ocglobal.jp](http://www.ocglobal.jp)